

▲8月31日にパイオニア11号が写した土星の輪。撮影のとき土星から93万7520^{km}離れていた。左上に写っているのは衛星テチス（直径1040^{km}）と思われる

パイオニア11号 接近写真を送信

◀8月29日、283万^{km}離れたところからパイオニア11号が写した土星。上に写っているのは衛星の一つタイタンで、直径5760^{km}。

=ともにAP

地球から十五億^{km}も離れた土星の素顔をこれほど真近に見るのは人類史上初めてのことである。アメリカの無人惑星間探測器パイオニア11号は六年半もの長い宇宙の旅を続け、ついに土星をとらえた。茶色い輪の飾りをつけ、神秘的な色に輝く土星。次々に送り届けられる接近写真はどれも地上の天体望遠鏡では決して得られないものばかりだ。

十個の衛星のうち最大のタイタンがくつきりと見える写真もあった。このタイタンには「あるいは生物がいるかも……」との期待がもたれている。接近写真をはじめパイオニア11号による数々の貴重な観測成果は、土星を、はるかなナゾの世界から引っぱり出し、私たちがぐっと近づけてくれるに違いない。